

KUSHIRO AGRICULTURAL COOPERRATIVE

釧路農協連通信

November
2022

No. 67

Kaketaka

カケタカ

釧路農業協同組合連合会
公式Webアドレス
<http://946nokyoren.or.jp/>



酪農危機の打開を求める切実な声

酪農現場からの悲痛な声は強まるばかりです。これまでにも幾度も厳しい情勢を経験し、それらを乗り越えてきた日本の酪農産業者はありますが、現在おかれている状況はかつてないレベルで生産現場を苦境へと追いやり、なおかつ先がほぼ見通せないことが生産者の不安感を増幅させています。こうした状況が長く続いてしまうと、多くの酪農場の経営が立ち行かなくなり、単に生乳生産基盤を揺るがすばかりでなく、地域社会の崩壊などその影響は多岐にわたります。

飼料など生産資材の急騰

昨今の生産現場の困窮は、購入飼料や燃料、肥料などあらゆる生産資材が急激に上昇し、生乳生産コストが大きく押し上げられたことが主因となっています。同時にヌレ子などの個体販売の価格の暴落も収入面で大きな打撃となっており、さらには乳業メーカーで余剰とされる乳製品の在庫が積み増していることにより北海道内の酪農家は生乳出荷量が強制的に抑制されているという状況が苦境に追い打ちをかけています。

写真提供：JA釧路太田

生産コストの中で大きな比率を占めている飼料費は、今までも海外での原料価格、それに輸送費や為替などにより変動を繰り返してきました。これまでは一時的に高値に推移することがあっても飼料安定基金等の仕組みによりある

程度緩和されてきました。しかし、今後の飼料価格の見通しは過去の推移とは別次元に移行しつつあるようで、これまでの調整機能が今後とも同様にその機能を果たすには、かなり心もとないというのが実情でしょう。

また過去半世紀で地球の人口はほぼ倍増しましたが、世界全体の農地面積はほとんど変わっていません。限られた農地で食糧生産の増加を支えてきたのは、農業生産技術の進化や育種改良です。特に施肥技術が果たした貢献は大きかったのですが、その重要な肥料要素である窒素・リン酸・カリウムも今後はその供給がこれまでとは異次元へと突入していくことが予想されます（窒素源を作り出すには多くのエネルギーを必要であり、リンやカリは世界に偏在する鉱石に依存しています）。こうし

た必要物資の不足は国家の安全保障にかかわることですから、今後は自国優先の思惑が益々強くなり、現在高値に推移する肥料価格がかつてのような値段に落ち着くことは期待しがたいでしょう。

しわ寄せ押しつけられる生産現場

このように生産現場でコントロールできる範囲をはるかに超えたところで次々と酪農を取り巻く情勢が変わっています。そしてそのしわ寄せは大半が生産現場へと押し付けられています。抜本的には生産者が得る乳価に生産コストが反映されなければなりません、それがなかなかスムーズには行われていません。指定団体であるホクレンと乳業メーカーとの乳価交渉は毎年行われていますが、今年のようにあまりに急激な生産費の高騰には全く追いつけず、ようよう期中に飲用向けとなる生乳の乳価を10円値上げするにとどまっています。これは上昇した生産コストを補える額では到底ありません。従前の手法や手順に固執することなく、これからは生産コストがスムーズに乳価に反映されやすい仕組みを再構築していくことが強く求められます。また同時に生産者

や農業を守るべき責任のある組織の中に使命感や緊張感が乏しいような体質がこれまでなかったかというところへの反省も忘れてはならないでしょう。

「豊富な食料」は 未来永劫続くわけではない

乳価の値上げは牛乳・乳製品の価格に反映されることとなります。消費者の理解は不可欠であり、需要にも影響してくるでしょうが、再生産できない価格であってはそもそも産業が成り立ちません。先進国、特に日本は豊富な食料、そして安価な食料価格に慣れすぎた経過がありますが、こうした豊か過ぎる食に恵まれた状態は人類史上で稀有な状況であって、これが未来永劫続くことは保証されているわけではありません。また新興国の躍進に伴い、日本の経済的な優位性も相対的に失われていく中、不足する食料は輸入で賄うという考えは、あまりに脆い基盤にあることを忘れてはなりません。不安をおおっているわけではありませんが、ただでさえ異常なほど食料自給率が低い日本が自国の農業の生産基盤を崩してしまうような状況を放置すれば、国の安全保

障の基礎さえ失いかねません。

各酪農場の収支状況の悪化を補う上でセーフティーネット資金の活用や各JAなどが打ち出した諸対策は相応の助けになっていきますが、残念ながら根本的な解決につながるものはありません。個々の農場でも管理や技術面でカイゼンを重ねることで生産性向上に努めています。これを遙かに凌駕した情勢の変化にあり、このままではかたてない勢いで離農戸数が増えるのが避けられません。

また見逃せない大きなポイントとして、日本の生乳の国内供給量は需要量の2/3程度しか満たしておらず、不足分は輸入に依存してきました。今回のように国内で過剰が見通せる状況にあっても脱脂粉乳をはじめとする乳製品の輸入を断行したことは全く理解しがたい措置です。国際的に最低輸入義務を負っているわけでもない量の乳製品の輸入を実施したことは大失策であったと指摘されても仕方ないと思われませんが、余剰と分かっているながら輸入を強行したことで誰が得をしているのか、なぜ止められないのかを検証する必要もあるでしょう。

また、消費面では高い品質を誇り、他国が欲しがる日本の乳製品を国際援助といった措置でも輸出できないのか、そして国内で食生活に困っている人々に直接食糧として援助する仕組みができないのかについての議論を強力に進めて欲しいものです。国内の、そして海外の困っている人を積極的に助けることは、ごく当たり前の措置です。循環を促す策を講じることはコスト以上の効果が期待されます。

地域の主産業・ 農林漁業を守る

日本は豊かな自然に恵まれ、人々が日々暮らすのに大変に恵まれた環境を有する稀有な国のひとつです。そうした国土を保全していくには離島や山間部、中山間地域の人々の営みを守っていかなければなりません。そうした地域での主産業である農業、そして林業や漁業は短期的な採算、新自由主義の経済学の理屈ばかりで論じられるべきではないでしょう。長期にわたって国民に必要な食料を確

保していくのは、国の安全保障の最重要な責務です。美しい日本の各地の風景を大きく損なうことなく次世代にしっかりと受け渡していくことは、現在の私たち日本人に課せられた使命といえるでしょう。

「日本の進路」への寄稿文より
抜粋・一部加筆修正



写真提供：JA釧路太田

釧路管内子牛の

出生頭数の動向からみる

今後の交配計画について

1. はじめに

釧路管内の昨年一年間のホルスタイン種雌牛等の乳用牛に交配する授精頭数は約142,000頭、その他ET生産を目的とした黒毛和種の授精卵移植頭数は約2,400頭。そのホルスタイン種等の乳用種雌牛からの子牛の出生頭数(雄・雌)は、年間63,561頭(前年対比99.5%)となっています。

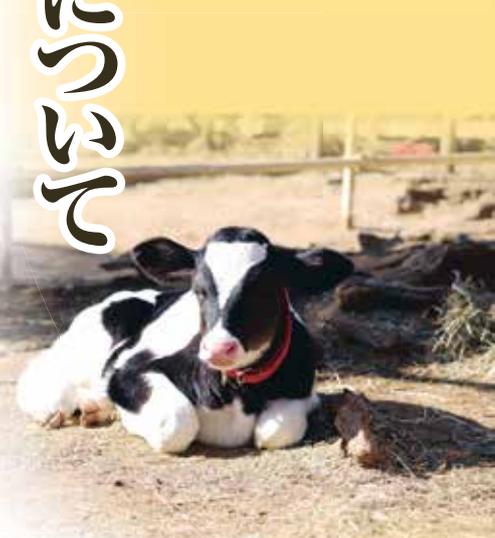
釧路管内のここ数年間の乳用牛への交配及び授精卵移植の動向は、ホルスタイン種の雌牛を効率的に生産する技術として普及してきた性選別精液の利用によって牛群規模を維持・拡大をしつつ、乳用雄子牛(以下・ヌレ子)よりも高価な交雑種(F1)子牛の生産を目的とした黒毛和種の交配率も一定の

割合で推移をしてきました。また、

近年では個体販売価格の付加価値を求めた和牛授精卵の移植が増加してきています。今般、釧路管内のホルスタイン種等の乳用種雌牛からの出生頭数やその品種構成に大きく関与することから、昨年から交配・移植動向についてまとめましたので、今後の交配計画等の参考情報として頂ければ幸いです。

2. 出生頭数は乳用種雌牛・黒毛和種授精卵産子が増加傾向に

子牛の出生頭数は、管内の乳用種雌子牛をはじめとした乳用牛資源の出生動向を掌握し生産現場に情報提供をするため、毎年4月に本会が(独)家畜改良センターの「牛



の個体識別情報」からデータ取得しているものです。釧路管内における子牛の出生頭数を年度別(1~12月集計)に示しました。(表1)令和3年度の乳用種雌牛(ホルスタイン種+ジャージー等の乳用種)の出生頭数は28,947頭(前年対比104.7%)と増加傾向にあります。同年度の肉用を目的として生産する交雑種(F1)15,674頭(前年対比90.3%)、黒毛和種(雄・雌)の出生頭数は9,866頭(前年対比131.5%)となっています。近年の出生動向は、個体販売価格の堅調な推移等から性選別精液等の活用による乳用種雌牛の確保のための生産対策と肉用素牛として個体販売を目的

表1 釧路管内の乳用種雌牛(ホルスタイン種等)からの出生頭数と動向

(単位:頭数)

	ホルスタイン種(雌)及び その他乳用種(雌)		交雑種(雄・雌)		ET産子・ 黒毛和種(雄・雌)	
		前年比		前年比		前年比
平成30年度	27,387	—	12,928	—	543	—
令和元年度	28,076	102.5%	13,930	107.8%	636	117.1%
令和2年度	27,642	98.4%	17,358	124.6%	750	117.9%
令和3年度	28,947	104.7%	15,674	90.3%	986	131.5%

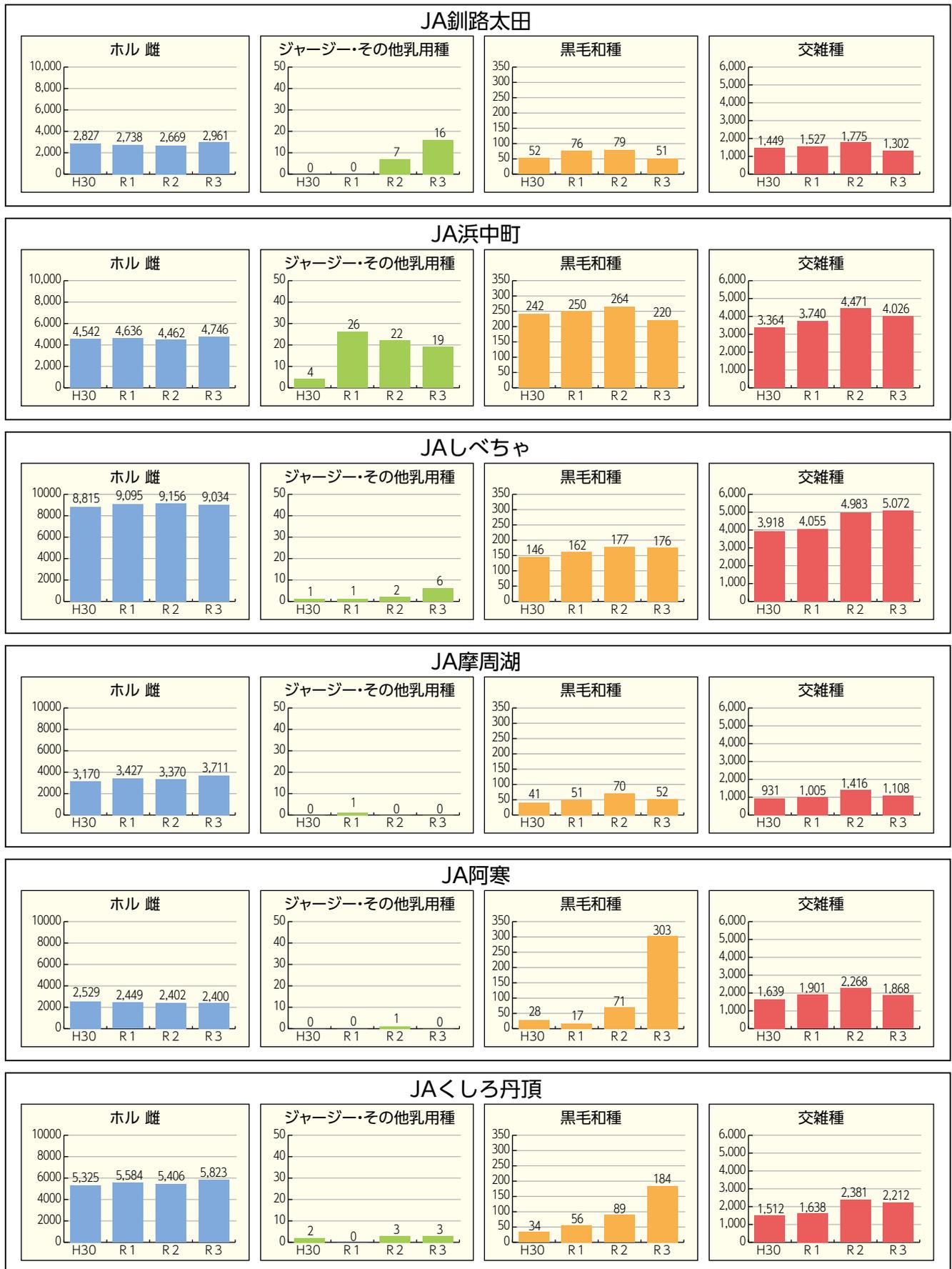
とした和牛授精卵移植の動向を反映した出生頭数の動きと伺い知事ができます。管内JA別状況は図2のとおりです。

(データ:独立行政法人家畜改良センター個体識別部) (データ抽出年月日:毎年4月)
(データ抽出期間:毎年1月~12月)

*黒毛和種は、ホルスタイン種を借り腹としたET産子の出生頭数となっている。

図2 乳用種雌牛からの子牛の出生頭数 (JA別)

(単位：頭)



※出生頭数データ:(独)家畜改良センター個体識別部

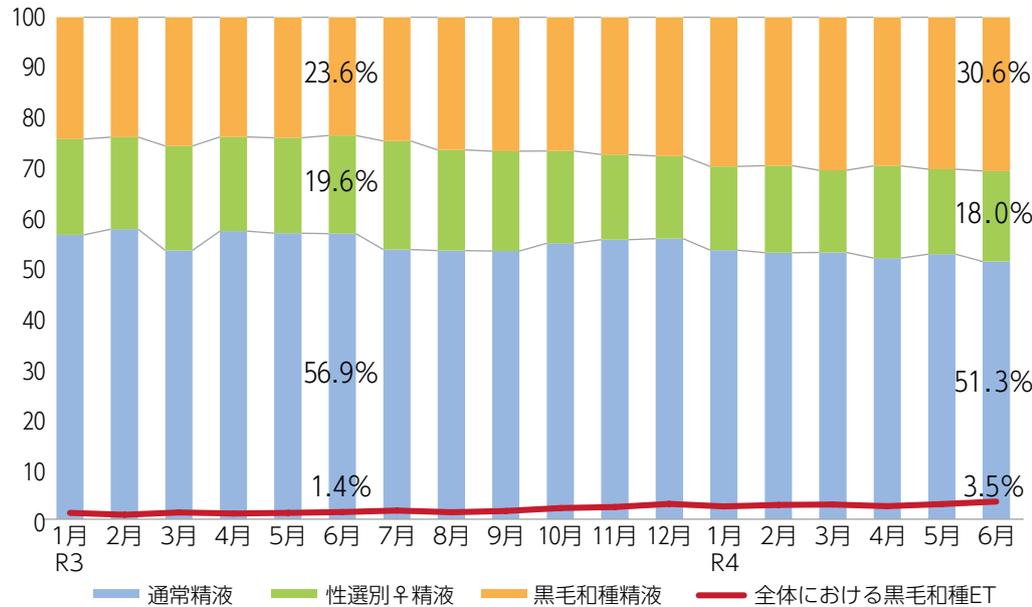
3. 昨年からの乳用種雌牛への交配率と和牛受精卵移植率の動向

出生頭数や品種構成に大きく影響する乳用種雌牛への通常精液

（主にホルスタイン種）及び性選別精液、交雑種（F1）生産を目的とした黒毛和種精液の交配率（以下黒毛和種）、ET生産を目的とした和牛受精卵移植率の動きを次に示します。

直近の6月の交配率は、通常精液51.3%（前年同期対比-5.6%）、性選別精液18.0%（前年同期対比-1.6%）、黒毛和種30.6%（前年同期対比+7.0%）、和牛受精卵移植率は3.5%（前年

図3 釧路管内の乳用種雌牛への交配率と和牛受精卵移植率



同期対比+2.1%）となっています。通常精液及び性選別精液は減少傾向にありますが、交雑種（F1）生産を目的とする黒毛和種の交配率は増加傾向にあります。また、全体に占める割合は少ないものの和牛受精卵の移植率も増加傾向にあります。

4. 激変する酪農経営環境下での交配計画について

従前よりも厳しさを増した酪農経営環境下では、収益性が低下したとはいえ、如何に利益を確保するか若しくは手元の預金を如何に減らさないといった現状の酪農情勢への経営対応と併せて中長期的な視点に立った酪農経営対策が求められます。令和3年度の釧路管内の子牛の出生頭数は、データでお示しの通りホルスタイン種を始めとした乳用種雌牛とET生産による黒毛和種の出生が増加傾向にあります。一方で交雑種（F1）は減少傾向にあります。

出生頭数に影響する要因としては、主として酪農場における交配率や和牛受精卵移植率の動向といった交配状況に加え、繁殖成績や死産事故数等の飼養管理も大きく関係します。そのため総合的に且つ中長期の視点で計画的な牛群づくりを基本とした交配計画と戦略が今後より重要になります。具体的な交配計画については、

以前に本誌（釧路農協連通信62号）を通じた経過があります。酪農経営の持続的な発展を目指すために遺伝的な側面から優良な牛群づくりを考慮した交配を堅持しつつ、後継牛が十分に確保される農場では、低能力牛や資産価値を損なった乳牛を選抜淘汰する、或いは税制上の措置がされる和牛受精卵移植を有効利用し個体販売に向けるといった積極的な交配戦略も一方策として検討が必要です。少ない雌牛から確実に優良な後継牛を生産する技術としては、高確率（およそ90%）で雌牛の生産を見込むことができる性選別精液の活用があります。

牛受精卵産子は一般的にホルスタイン種よりも小さく生まれるため初産でも難産せず、乳牛の事故リスクが小さめである点もメリットとして挙げられます。

しかしながら一方では乳用牛の借り腹とした和牛受精卵移植は、受精卵の価格をはじめ移植経費が人工授精よりも高額になることで経費が高む事や和牛の子牛は乳牛よりも弱いため、特に寒暖差が大きな時期や厳寒期等の子牛死亡による機会損出は大きく、また産子が適切に哺育・育成されずに十分な収益が得られないケースは少なくない為、事故率の低減化が課題とされています。

一方、黒毛和種精液を交配する交雑種（F1）の生産については、これまで肥育素牛価格が高値であり、市場等の評価が得られる傾向にありましたが、不安定な相場動向から個体販売における高評価を得られにくくなっており、和牛受精卵移植の方策からみると優先度は低くなります。

5. 次期を見据えた交配戦略について

生乳生産環境は、新型コロナウイルス禍に伴い生乳需給緩和の影響で、酪農経営は収入が減少する一方、支出は生産資材価格の相次ぐ高騰で急激にコストが嵩み、生産抑制も強いられているなかで、全国各地で飲用乳の生産者乳価が2022年11月から10円/kg引き上げられる報道がされていますが、北海道の場合、乳製品向けを含むブルー乳価への反映は約2円/kgに留まる事から酪農経営のコスト上昇分を吸収するまでには至っていない見方が大勢を占めています。このような中で酪農経営の副収入源となる子牛の個体販売を巡る情勢も、ヌレ子（乳雄初生牛）の相場の不振が伝えられており、釧路地区家畜市場の平均価格は一頭当り14,256円（9月時点・前年対比21.3%）の記録的な安値となっています。初生牛相場はヌレ子だけでなく交雑種（F1）も価格が低下傾向にあり、厳しさを増す酪農経営に追い打ちを掛けている形となっています。一方、一般市場で初生販売される黒毛和種につ

いては、販売価格が低下傾向にあるものの雄牛で平均価格395,662円（9月時点・前年対比82.0%）、雌牛で平均価格284,743円（9月時点・前年対比74.5%）と、他の品種と比べるとその下げ幅は小さいと言えます。今後についても関係者からはヌレ子相場の急回復する好材料を見通せないとされており、酪農場から生産される子牛サイドからも酪農経営への影響を最小限にする生産対策が求められます。現在、酪農を取り巻く情勢は乳製品の過剰在庫、生乳の生産抑制、飼料を始めとした資材高騰、子牛や初妊牛等の個体価格の暴落といった取り巻く情勢が酪農現場に影を落としている現状で先が見通しづらい経営環境下ですが、強靱な酪農経営体質を形成していく事が求められます。

とりわけ子牛生産サイドからの経営対策としては、生産された子牛を事故や疾病等で損失が生じないよう飼養管理の改善等、原点到立ち返りその価値を見つめ直すことを図りつつ、授精技術者等との相談のうえ、経営に必要とされる乳用種雌牛の生産を性選別精液等の有効活用により遺伝的に優れた

牛群を選抜し改良を進めて行くことが必要となります。

また、ETによる黒毛和種の生産リスクを留意しつつ、短期の飼養期間によって市場等で比較的高評価を得られ易い和牛受精卵移植の導入を進めて、個体販売収益を高めていく取組みによって、酪農経営体質の強化を目指した乳用種雌牛への交配計画を推し進めていく事が次期を見据えた交配戦略として求められるでしょう。

■データ：(独)家畜改良センター個体識別部、
(一社)北海道家畜人工授精師協会
一般市場情報 ホクレン釧路地区家畜市場(速報版)



下降する和牛素牛市場価格。 価格を落とさない手段はまだあるのか!?

黒毛和牛素牛市場の現状

図1は道内の黒毛和牛素牛市場価格を令和4年度は開催月別、それ以前は年度別に価格階層ウエイトと平均価格を表したグラフです。近年では70万円以上の階層が半数以上を占めていますが、令和2年は新型コロナウイルスの影響から下落し、一時は回復したものの令和4年5月以降は平均価格は下降し価格のばらつきも目立ってきているようです。

表1は同じ血統で増体率（体重/日齢）が同様の素牛を令和3年3月と本年8月の市場成績で比較したものです。産子数の違いはありませんが約11〜16万円も価格は落ち込んでいます。需

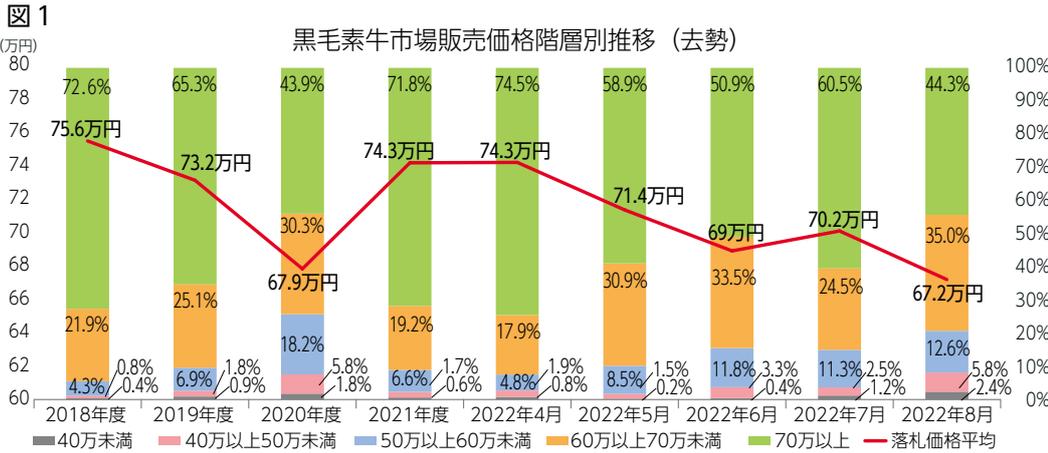


表1

父牛名号	母の父名号	母の母の父名	産子数	体重	飼養日数	日齢/体重	落札価格
若百合	安福久	勝忠平	44	302	233	1.30	841,000
若百合	安福久	勝忠平	77	333	252	1.32	728,000
勝早桜5	安福久	平茂勝	4	362	292	1.24	928,000
勝早桜5	安福久	平茂勝	7	329	263	1.25	788,000
若百合	安福久	平茂勝	14	336	299	1.12	880,000
若百合	安福久	平茂勝	7	315	276	1.14	716,000

要の低迷と急激な資材高騰による肥育農家のコスト削減が考えられますが、今後しばらくその傾向が続くことが予想されます。

価格を下げる要因は...

表2は本年8月の道内素牛市場における価格が30万円以下の素牛の一例です。ほとんどの牛は増体率が低く小さい素牛ですが、それに加えて注目したいのは三代祖に20年以上も前に生産された種雄牛が含まれていることです。これは遺伝的に産肉能力が改良された現在の種雄牛よりマイナス要素となりそれが市場価格に反映されていると考えられます。また産子数が多い（高齢牛）等マイナス要素が複数重なることで更に価格を落とす要因となる可能性があります。

表2

父牛名号	母の父名号	母の母の父名	産子数	体重	飼養日数	日齢/体重	落札価格
奈津百合55	北福栄	第3平茂勝	10	240	281	0.85	267,000
百合未来	百合茂	平茂晴	14	278	341	0.82	263,000
豊奨菊	21世紀	茂重桜	11	229	338	0.68	233,000
百合白清2	安福久	第1花国	19	261	272	0.96	201,000
輝百合	谷照(鹿児島)	福栄	11	275	283	0.97	139,000
勝早桜5	第1花国	安平	10	370	356	1.04	103,000
美津照重	勝早桜5	藤桜	3	292	333	0.88	101,000

それでも高い素牛はまだいる…
がその逆も…

表3は本年8月の道内素牛市場における価格が95万円以上の去勢牛の一例です。増体・発育は当然良好で、かつ三代祖の血統も古いものはほとんどありません。産子数については母牛の育種価が高い等により採卵すると多くなるため産子数だけで母牛を高年齢牛と一概に判断はできません。(100万円を超えるものは母牛の育種価が優れていることで採卵している場合が多い)。一方で、表4は同じ市場開催月の素牛で増体・発育は悪くないにもかかわらず価格が低い牛の例です。三代祖に古い種雄牛がいることや産子数等の市場性を下げる要素が複数あれば、増体が良くて高額販売牛とは大きく差が生じます。

表3

父牛名号	母の父名号	母の母の父名	産子数	体重	飼養日数	日齢/体重	落札価格
福之姫	安福久	平茂勝	16	362	301	1.20	1,033,000
茂晴花	安福久	隆之國	3	362	280	1.29	1,015,000
福之姫	安福久	勝忠平	7	361	293	1.23	975,000
福之姫	安福久	耕富士	2	352	276	1.28	967,000

表4

父牛名号	母の父名号	母の母の父名	産子数	体重	飼養日数	日齢/体重	落札価格
鈴音	H12年生種雄牛	H2年生種雄牛	9	353	298	1.18	180,000
福之姫	勝忠平	S56年生種雄牛	12	384	311	1.23	309,000
秋忠平	H8年生種雄牛	H2年生種雄牛	12	304	271	1.12	255,000

価格を落とさず
市場性を高める
ために…

これまでの和牛素牛市場価格はある程度の増体や血統構成であれば70万円以上悪くても50万円以上で販売されていたため、生産者は母牛が高齢であっても繁殖成績が良ければ保留し利益を見込める状況でした。しかし急激な資材高騰により大きく情勢は変化しました。現在では、母牛が9産以上の高齢であったり、三代祖に数十年以上に生産された種雄牛が存在すると父牛が新しく能力のある種雄牛であったとしても大きく価格を下げる可能性が高くなってきています。購買客は今まで以上に良い素牛を厳選して求めてきています。

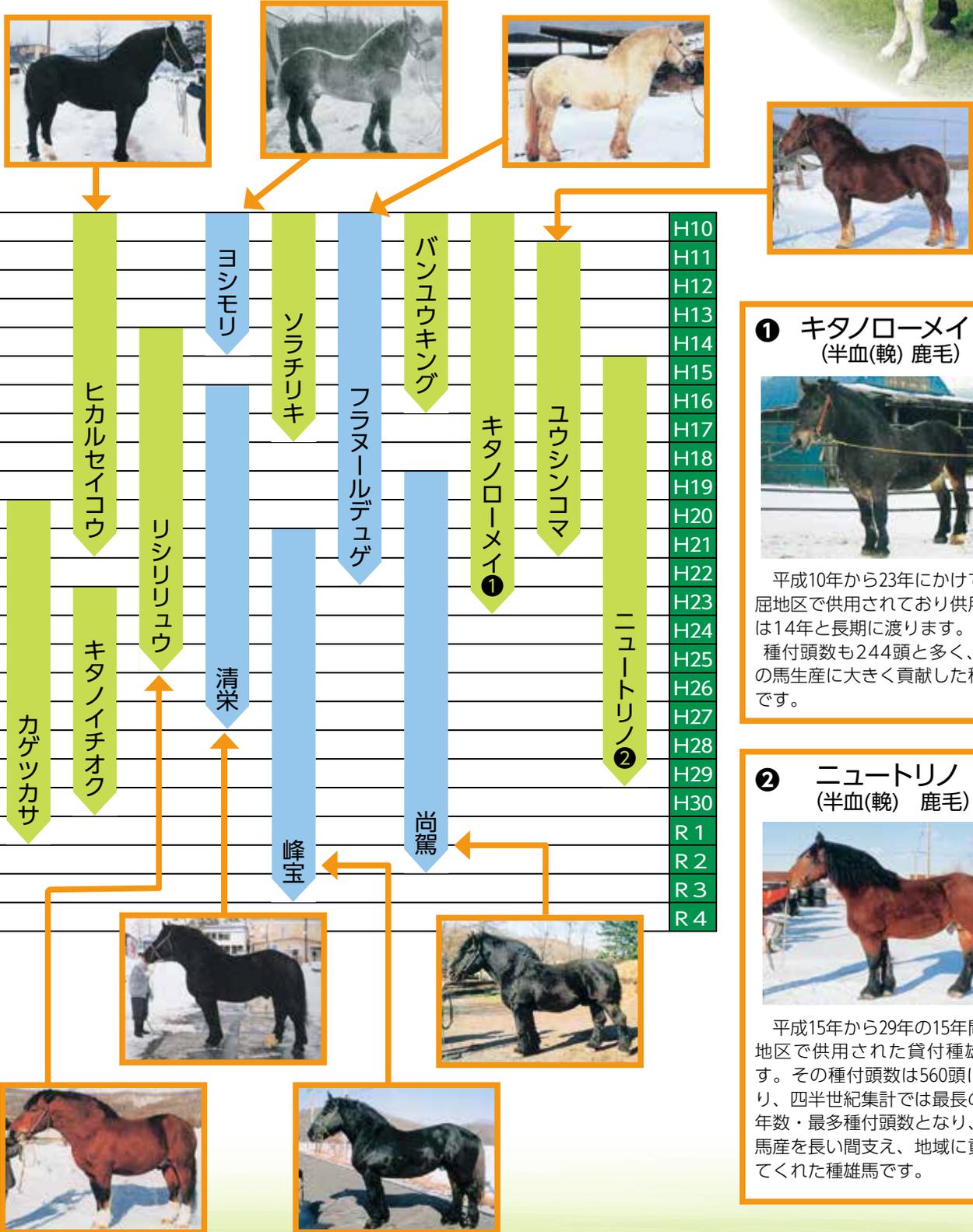
市場性を高めるための対策として

今のところ和牛素牛の平均個体販売額はまだ低くはない状況ですが、徐々に下降することも予想されます。哺育育成期の飼養管理を大切に管理することが大前提ではありますが、市場性を高める対策として市場性が低い子牛を生産する繁殖牛を更新する決断が必要になります。そして保留牛には父牛と母牛が新しい血統の体が大きな雌牛を保留して牛群を揃えてゆくことがこれからの市場成績対策として必要になると言えます。



うましらべ 釧路管内供用種雄馬年表 「四半世紀集計」

平成10年から令和4年までの期間に釧路管内で供用されていた種雄馬延べ253頭について供用年数・種付頭数を調査し、年表にまとめました。
掲載馬は次項の条件に当てはまる種雄馬を29頭選定しました。



① キタノローメイ (半血(鞍) 鹿毛)



平成10年から23年にかけて弟子屈地区で供用されており供用年数は14年と長期に渡ります。
種付頭数も244頭と多く、釧路の馬生産に大きく貢献した種雄馬です。

② ニウトリノ (半血(鞍) 鹿毛)



平成15年から29年の15年間浜中地区で供用された貸付種雄馬です。その種付頭数は560頭にも上り、四半世紀集計では最長の供用年数・最多種付頭数となり、釧路馬産を長い間支え、地域に貢献してくれた種雄馬です。

③ シンカザン
(ペル 芦毛)



シンカザンは釧路市/阿寒地区で供用された種雄馬です。
釧路管内で供用された年数は平成9～16年の8年間ですがその間の種付頭数は441頭と非常に多く、1年間で種付した頭数は多い年で110頭にもなります。
釧路の馬生産を支えてくれた種雄馬の一头です。

④ バルジャン
(ブル 栃栗毛)



浜中地区で供用されていたバルジャンは四半世紀集計では平成10～23年までの14年の供用年数でしたが、さらに遡ると平成2年から供用されており、供用年数はなんと24年にもなり、釧路管内では最長の年数となります。
非常に長きに渡り釧路馬産を支えてくれた種雄馬です。

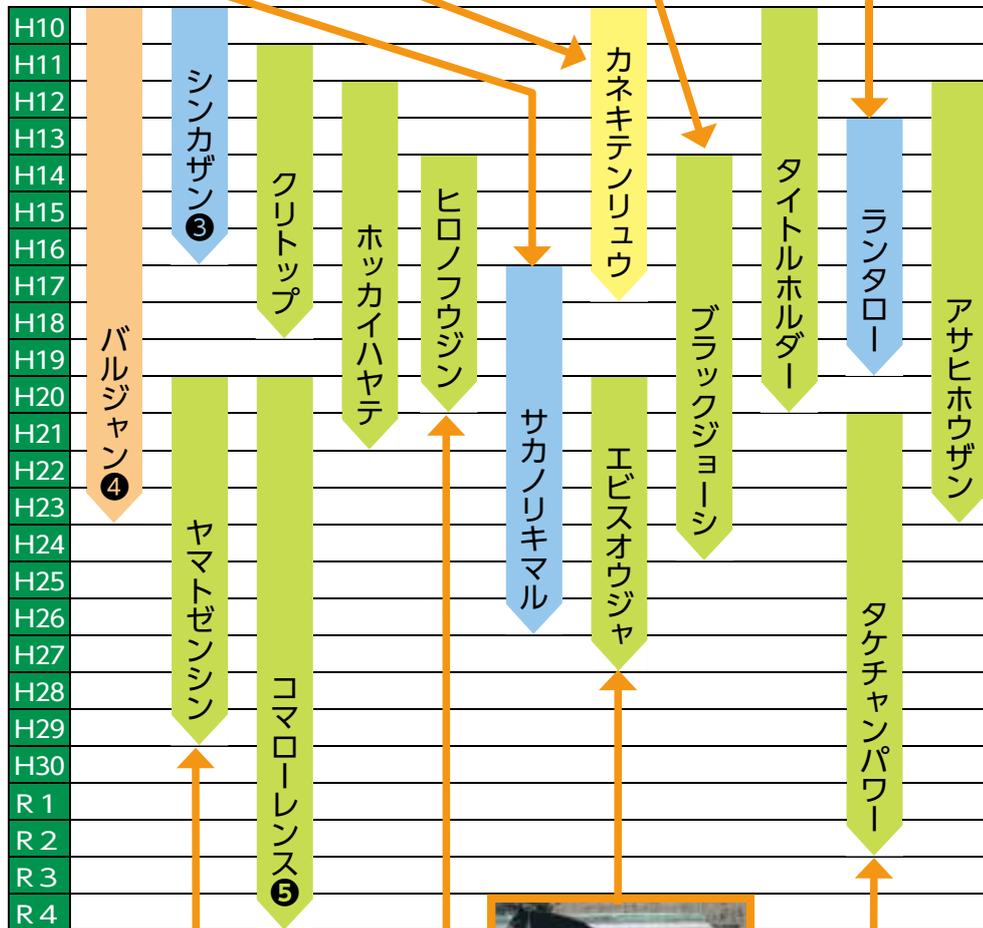
⑤ コマローレンス
(半血(鞍) 栗毛)



平成20年から白糠地区で供用されているコマローレンスは今年で供用年数15年目と現行の供用種雄馬では最長の供用年数を誇り、現在も釧路の馬生産に貢献しています。

選定条件

- ① 期間内で10年以上供用されている種雄馬
- ② 期間内の累計種付頭数が200頭を超えている種雄馬
- ③ 期間内の平均年間種付頭数が15頭を超えている種雄馬 (平均年間種付頭数 = 供用期間 ÷ 累計種付頭数)



令和4年度 釧路種馬共進会



測尺審査①



測尺審査②



最高位



令和4年度 釧路和牛共進会



測尺審査①



測尺審査②



宋経産最高位



経産最高位

7/5 釧路種馬共進会、7/19 釧路和牛共進会、8/9 釧路ホルスタイン共進会
が開催されました！ご協力頂いた皆様ありがとうございました！

釧路管内共進会 3年ぶりに開催！

令和4年度 釧路ホルスタイン共進会



酪農従業員の 安定的な雇用確保のために



現代の酪農経営では、飼養頭数の規模拡大が進み常時雇用労働力を導入する経営が増えています。家族経営やギガファーム等の規模に関わらず、新人や外国人実習生の受入れによる経営が増加していることから農協等の指導機関では、酪農従業員定着のための取組みが必要とされ、これまでも関係者を対象に労務管理研修会の実施や酪農家の作業標準書「デーリィ Navi」(全酪連・ホクレン・釧路農協連の協同製作)等の普及に取り組んできました。

今後においても雇用の安定的な確保は重要な課題とされており、その対策としてどのような取組みが求められるのかを酪農試験場に調査を依頼。今般中間報告が纏まりましたので報告をさせていただきます。

酪農経営における常勤従業員の定着阻害要因の 解明と定着率向上対策の提示(中間報告)

1. はじめに

酪農経営では規模拡大が進み、常勤の従業員を雇用する経営が増えています。一方で従業員の定着には課題があり、農業法人のなかで酪農は園芸や水稲に比べ早期の離職率が高い傾向にあり、人手不足が深刻化しています。酪農地帯は人口が少ないうえ、北海道の人口は2040年には2015年に比べ約110万人減少するという推計もあり、今後より一層従業員の確保が難しくなることが予想されます。

そこで、酪農試験場では従業員の定着率低下の対策の提示を目的として、酪農法人の経営者に人的資源管理(従業員の人材育成に関する取り組み)について何うととも、勤務する従業員にアンケートを行い、どのような取組みが従業員の定着や働く上での満足感に繋がりがやすいのかを検討しています。

2. 調査対象と雇用条件

釧路・根室管内の酪農法人8経営(常勤従業員10名以上・3法人、常勤従業員10名未満・5法人)を対象に①経営者への人的資源管理の聞きとり②従業員へのアンケート調査を実施しました。アンケートは44の質問項目について5段階評価をつけてもらう形で実施し、合計71名の従業員に回答をいただきました。回答者の属性は男性55名女性14名(無回答2名)、勤続年数は1年以下23名、2〜3年19名、4年以上25名(無回答4名)となっています。

まず、経営者への聞き取りから各法人の雇用条件を比較しました(表1)。採用時の給料水準は大きな差はないものの、一部の法人では勤続年数が長く、農場長や部門の管理職に就く従業員に対しては高い給料が支払われていることがわかります。また、朝夕の搾乳に対応した中休みが長

表1 酪農法人ごとの雇用条件

法人	常勤従業員10人未満					常勤従業員10人以上		
	A	B	C	D	E	F	G	H
給与水準	25万円～	20～30万円	18-20万円～	22～45万円	20～30万円	20～40万円	20～30万円	20万円～
昇給	役職に応じて	年1回	年1回	年1回	年1回	年1回	年1回	年1回
社会保険	あり	あり	あり	あり	あり	あり	あり	あり
勤務時間	5:00～ 8:30 15:00～19:30	8:00～18:00 (休憩2時間)	4:30～ 9:00 12:00～15:30 18:30～22:30 から2回勤務 4:30～17:00 (休憩含む)	6:00～18:30 (時期に応じて3時間～7時間の休憩)	5:00～ 9:00 14:30～18:30	3:00～ 7:00 10:00～14:00 10:00～14:00 16:30～20:30 7:00～16:00	5:00～12:30 12:30～20:00	3:30～11:30 15:30～23:30
備考		早朝勤務 4時間 (夏期・隔日) ※早出手当支給		昇給の上限あり	昇給額は評価制度によって判断	シフト制		
休日	週休2日	5勤1休(夏) 4勤2休(冬)	週休1日	4週6休	週休1日	4週5休(夏) 4週6休(冬)	週休1日(夏) 4週6休(冬)	4週6休

い勤務時間を採用する法人が多いです。そのため福利厚生の一貫として、敷地内の社宅や、通勤する従業員向けに休憩部屋を用意する法人もありました。

3. 従業員が重視する項目

重要度が高い項目（総合満足度に対して影響が大きい項目）について、従業員を勤続年数や性別ごとに分類し示しました（表2）。全体で見ると「長期就社」の重要度が高いものの、性別や勤続年数によって重要視する項目が変化していることがわかります。

男女別にみると、女性は男性に比べ「給料額」「給料比較」などの経済的報酬や、「能力向上」「承認」などの仕事のモチベーション向上にかかわる項目を重視する傾向にあります。女性従業員の定着には、従業員の仕事を評価し給与に反映する取り組みがより重要であることがうかがえます。

勤続年数が1年以下の従業員は「責任分担」「意見反映」を重視する傾向にあります。このことから、曖昧な作業の指示を出さないこと、経験の浅い従業員の小さな気づきや意見であっても作業改善に反映する姿勢を見せることによ

り、早期離職の防止に繋がります。このように、従業員に向けた接し方や伝え方は、性別や勤続年数によって変える必要があるといえます。

表2 分類別に見た重要度上位項目

	全 体	性 別		勤続年数			
		男性	女性	1年以下	2～3年	4年以上	
総合満足率	38.0	40.7	28.6	56.5	36.8	24.0	
重要度順位	1位	長期就社	長期就社	給料額	責任分担	方針徹底	給料額
	2位	雰囲気	雰囲気	能力向上	意見反映	給料額	長期就社
	3位	勤務時間	段取り	給料比較	権限付与	長期就社	指示徹底
	4位	段取り	責任分担	承認	自然ふれあい	達成評価	段取り
	5位	給料額	勤務時間	身勝手	勤務時間	賃金体系	能力向上

注) 総合満足率：「総合的にみて、現在のあなたの仕事に関する満足度はどの程度ですか」に5段階中4以上と答えた割合

4. 総合満足率が高い経営で 行われている取り組み

重要度の高い項目について、高満足度経営（総合満足率が高い経営）での取り組みは表3の通りです。

表3 高満足度経営における取り組み

要因	分野	項目	高満足度経営における取り組み
不満要因	経済的報酬	給料額	・初任給や手当に大きな差はなく、役職や職務に応じた昇給が大きい
	対人関係	雰囲気	・社長によるトップダウンは避ける ・役員によるこまめなコミュニケーション ・社労士との定期的な面談による従業員との関わり方の振り返り、就業規則の改善
	対人関係	身勝手	・採用時に対人能力や経験よりも協調性がある人材であることを重視
	作業条件	勤務時間	・搾乳について設定した時間内での終了を重視し、パートの雇用や作業改善を実施
動機づけ要因	監督技術	段取り	・アクシデントを除き仕事の指示は毎日のミーティングでのみ行う ・1年間の農場の流れをまとめ従業員と共有
	承認	権限付与	・経験に応じて裁量を与える
	成長可能性	能力向上	・資格取得の補助 ・勉強会（月1回）、外部講師による講習（年2回）、外部での講習への参加
	仕事そのもの	長期就社	・分譲制や独立就農を想定し全作業に従事 ・意向に応じて農場長までのキャリアを提示

最も重要とされる「長期就社」の項目について、評価が高い経営では、会社の中でどのようなキャリアを歩むことができるのかを面談やミーティングを通してはつきりと従業員に伝えていました。

このほかにも、高満足度経営では「雰囲気」に関連して、「社労士に定期的に法人に来てもらい、就業規則や従業員とのコミュニケーションについて相談している」「段取り」に関連して「1年間の農場の流れを従業員と共有したことで、指示を待たただけだった従業員が先回り動いてくれるようになった」などの取り組みがおこなわれています。

5. まとめ

以上の通り、従業員が抱えている不満や要望は、従業員の個人的な性格に加え、勤続年数や性別などの属性によっても変化するため、従業員の人材育成に関する取り組みを変える際には、働いている従業員の特徴を把握することが重要となります。今回実施している従業員アンケートは、無記名で実施しており、経営者には直接話すことが難しい従業員の不満や不安、やる気の源泉を可視化するきっかけとなります。

今後はさらに従業員アンケートを実施することで、法人の規模や働く従業員の属性に応じた有効な対策について検討を進めていく予定です。

情報化と情報禍

あちこちから様々な情報が農場に提供されています。またネット検索すれば、いくらでも情報を引っ張り出すことができます。便利な情報化社会になったとも言えるでしょうが、必ずしも「情報の増加」が有益な情報の増加ではないというですし、やはり情報は振り回されることなく、あくまで自身が主体となって利用するという立場でありたいものです。

もたらされる情報の中には、営農や牛群管理の指針や参考となる有益なものが数多くあるでしょう。しかしその一方で、真偽性がかなり疑わしい情報、さしたる意味の見いだせない情報、2番・3番煎じのコピー情報、学術的過ぎあるいは筆者の文章力が足らずに分かりづらい情報なども少なくありません。まさに玉石混交。自分にとって本当に有益な情報がこうしたゴミ情報の中に埋もれてしまっただけではない限り、まさに情報化社会の「情報禍」と言ってもいいでしょう。

「仕事の成果の8割は、2割の情報によってもたらされる」とも言われます（パレードの法則）。まさに言い得て妙です。8割も

占めているゴミ情報と格闘することは疲弊や混乱をもたらすだけですから、すぐにゴミ箱へと放り込みたいものです。そのためには情報をフィルターを通じて絞っていく作業が必要となります。もちろん各人、どんな情報が必要なのか、情報によって何をなしたいかは一律ではありませんから、フィルターもまた同じではありません。自分自身の精度の高いフィルターが欲しいところですが、これが残念ながらなかなか簡単にはいきません。つい「とりあえず取っておく」という行為が多くなり、いつの間にかゴミの山が築かれてしまします。容易に判断がつきづらいうちは信頼できる人の判断基準を参考にすることもいいかもしれません。そして徐々に有益な情報の探り方、見分け方を学びとっていくことで、自身の価値観に基づいたフィルターが作りに上がっていきます。

特にこの業界は、提供者側の応業務をやっていますよ的な情報、あるいは筆者の自己満足としか思えないような情報が少なくありません。これらはフィルターを通す以前に秒で廃棄したいところです。あるJA広報誌は、ありがちな在



札関係団体のトップの年頭挨拶文などといった類の記事は端から掲載せず、その代わりに組合員に提供すべき内容になるよう充実を図っています（見習いたいもので本誌も紙面充実には配慮しておりますが、皆様が取るに足りない中身とご判断されたらゴミ箱へ…）。

現在、情報のやり取りはSNSなどが大きく幅を利かすようになりましたが、実はこうしたシステムは巧妙にしかけられており、人に中毒性（依存性）をもたらしやすく仕組まれています。いつの間にか何だかよく覚えていないチャネル登録が増えたり、いいねの数に一喜一憂したり、既読に返事がこない相手に憤りさえ感じたりするようにもなります。寝る前や朝いちにスマホチェックが鉄板の習慣になっっている、1日かなりの時間を自分が定番とするアプリをいじるのが当たり前の生活となっているならば、冷静になつて振り返ってみることも必要でしょう。どうでもいいゴミ情報に膨大な時間を費やしている自分が見つかるかもしれません。

選り抜いた情報や知識は十分に活かしていきたいところですが、これらでさえ正解であるとは限りません。また他者には正解であっても自分にとっても正解であることの保証はありません。自分にとっての正解は、自身が考えて導き出すしかありません。情報や知識はそのための素材に過ぎませんし、専門情報の中のウソの大半は専門家から発せられているという事実も忘れてはなりません。自分が得心するまで疑い続け、自身の腑に落ちるほど正解であると確信したならば、たとえそれが世間の正解ではなくても、勇気をもって信じるべきでしょう。

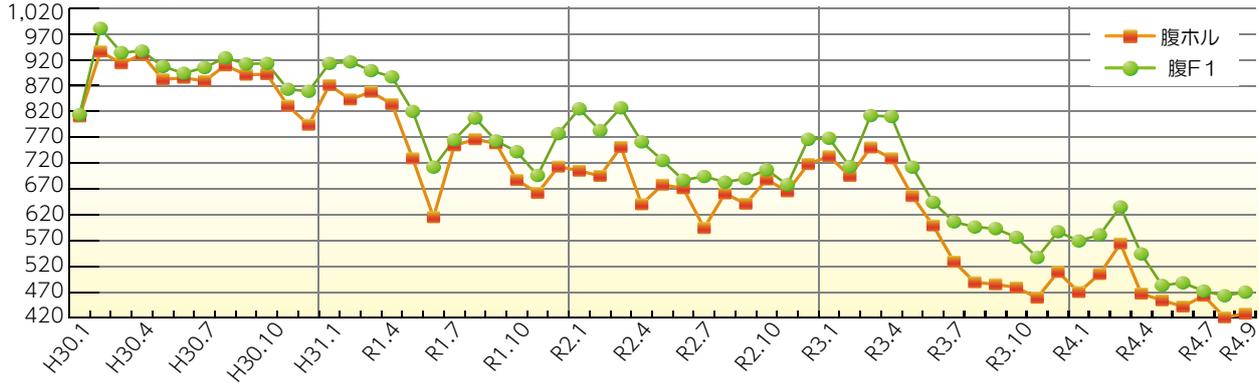
ちなみに名著と呼ばれるような著作は、長い年月多くの人々の批判にさらされ続けて評価された内容ですから、最新の情報や知識ではないものの有益な示唆を与えてくれる可能性は圧倒的に高いと言えるでしょう。運よくこれぞという本に出会えたならば、幾度も読み返すことで、いつしか自分の丈夫で健康な体の血や肉となつてくれます。名著はその読みづらさがネックとなりがちですが、その時々こそYouTube（や「100分de名著」）などが良き指南役となってくれます。

市場平均価格の推移



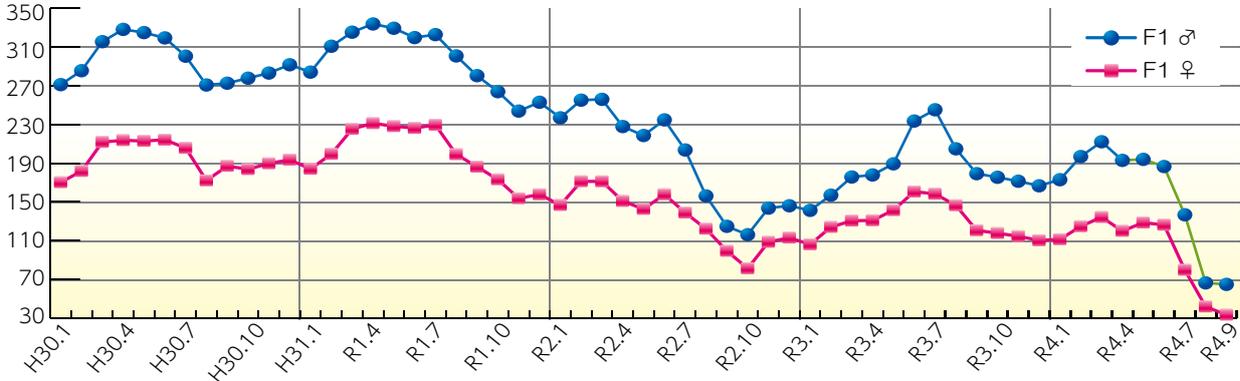
乳牛市場 釧路市場

千円(税込み価格)



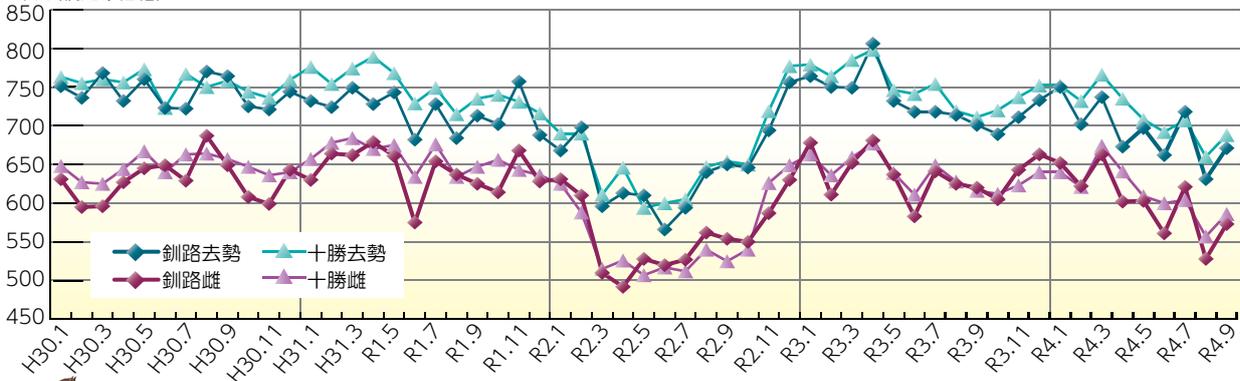
初生乳用交雑種(F1) 釧路市場

千円



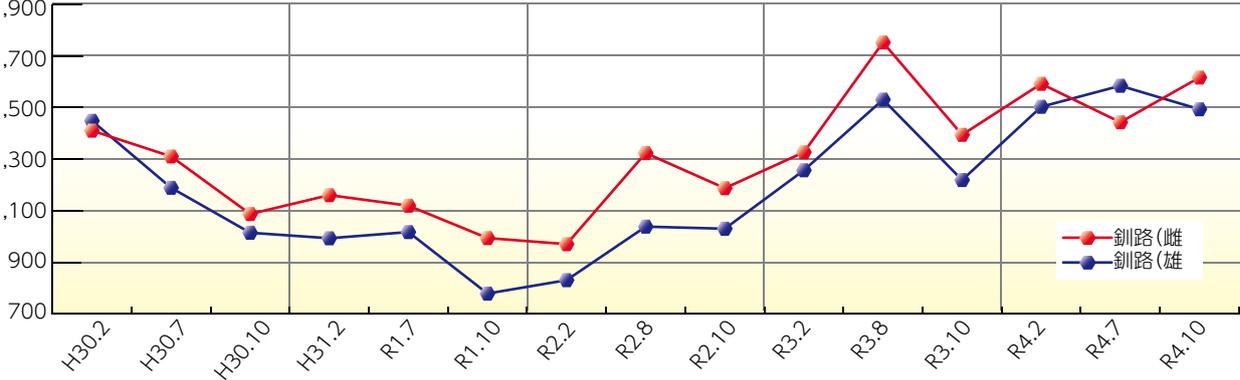
黒毛和種 十勝市場

千円(税込み価格)



重種馬 釧路市場

千円



釧路管内の歴史を巡る旅

Vol.10

音別町ふれあい図書館

『みなくる77』を訪問して…



音別町の歴史 <前編>

シリーズ企画として連載している釧路管内の歴史探訪。今回は釧路市音別町の歴史を前後編2回に分けてピックアップしたいと思います。※内容に関しては諸説ありますのであくまで筆者の見解も含む点、ご了承ください。

釧路管内における最西端地、十勝管内と隣接する街、釧路市音別町（おんべつちょう）は、元々白糠郡に含まれる形で存在していましたが、2005年（平成17年）10月に釧路市と合併し、別行政区域の白糠町を挟む形で釧路市の飛び地の街となりました。

音別という地名はアイヌ語の「オムペツ」（川尻・塞がる・川）がその由来とされています。（※諸説あります）

また合併前は地形が有名な彫刻『ミロのビーナス』に似ていたことから「北のビーナス」として町おこしが進められておりました。



特産品で有名なのが蔴（以下「フキ」）で、町全体としてフキを活用した地域振興に取り組んでおり、年に一度その名を冠したイベント「北のビーナス蔴まつり」が開催されたり、地場産フキを使った加

工品、フキの皮を原料とした和紙「富貴紙（ふきがみ）」などを商品化し、その生産・販売などを通じて地域活性化や雇用創出に取り組まれています。

今回はそんな釧路市音別町を訪問し、その歴史を紐解いてみたいと思います。

調査のため訪れたのは、赤い屋根が目印の音別町ふれあい図書館『みなくる77』（釧路市音別町朝日2丁目81）。ここは1階が図書館、2階が郷土



壁一面にフキの絵が描かれています



入り口には目音別町の地形のジオラマ

資料展示室になっており、フロア内にはアイヌ民族の暮らしの様子や遺跡、この地で発掘された貴重な石器などの出土品が展示され、また音別地域の開拓の歴史や尺別炭鉱の成り立ち、開拓に深くかわった人物について紹介されています。

また、昔の農林業で実際に使われていた用具や当時の暮らしが分かる日用品が多数展示されており、歴史を身近に感じることができそうです。

中でも一段と目をひくのが、戦後、映画と演劇の興行が行われた「音別劇場」の前身である『栄楽館』を再現したコーナーです。こちらの外観は大正初期に開設された劇場の再現となっており、場内では町の歴史をまとめたマルチスライドが流れ、当時の様子を垣間見ることができそうです。

その他にも貴重な資料が展示されており、来館者が飽きない工夫が随所に散りばめられておりました。



音別農業今昔物語

現在、釧根地方一帯の農業といえば酪農畜産が主流ですが、昔の音別では、畑作、特に道東地方では珍しい米を耕作し、営農していたそうです。

開拓後の音別は気候及び土壌の性質上、自前で米を生産することが難しかったため船や鉄道で運びこまれており、そういった経緯から高級食であった米を当時主食にできた家庭はごく一部であり、入植した多くの家庭では黍（きび）や馬鈴薯（ばれんしょ）が常食で、そこに自家菜園の野菜、フキ、川魚、まれに鹿肉などを副食としていました。明治42年頃にはラングーン米とよばれる外国産の安い米が入手できるようになり、黍や麦と混ぜて主食とする人もいました。

音別に入植した人々は米作地帯からの移住者が多く、自家栽培による米作りの夢を持ち、開拓時代から早くも試作に取り組んでいました。が、いずれも失敗に終わり、大正10年に田部幸次郎（たべこうじろう）が川西地区の水田から収穫した2石（約300kg）の米が初めての音別産米とされており、その後、何人か試作に加



開拓のため複数人で大木を切り倒す様子
畑作中心の農業から酪農化へと全村的な転換を正式に決定したのは大正12年のことでした。
翌年大正13年に太田村（厚岸町）からエアー種系13頭、翌14年に根室牧

わっています。昭和2年に尺別原野の杉山金蔵（すぎやまきんぞう）が26石の収穫をした他には目立った記録もなく、昭和9年には音別にあつたすべての水田が姿を消しています。

その理由として音別では開拓時代から穀類を主体とした畑作が行われてきましたが、前記したように気候や土壌の問題（冷害や洪水）に毎年のように襲われたからとされ、農業経営者の苦しい生活状況が記されています。

そのため農業スタイルを畑作から酪農へとシフトチェンジする動きが強まり、音別の農業者は酪農先進地の視察などを頻繁に行い、転換に対する確信を深めていきました。記述によると音別で牛が最初に飼われたのは中村牧場で、明治30年には81頭の飼養が記録されています。その後も田部牧場や直別地域などで飼われていたが、

場と八雲地方からホルスタイン種系11頭の乳牛の導入と十勝種畜場からホルスタイン種の種牡牛一頭の貸付を受けたことで現在につながる酪農主流地帯への第一歩が踏み出されます。

また、大正15年には製酪所が設置され、昭和2年からは「クロイバーバター」の製造がはじめられています。

乳牛の他に音別で飼養されてきた家畜は馬、緬羊（めんよう）、山羊、豚、鶏などがいました。鶏は農協が試験事業で9千羽以上を飼っていたこともありましたが、採算が取れず中止になったそうです。

その他、その後の小畜も現在はほとんど飼われず、牛以外の家畜の定着はありませんでしたが、馬産に関しては牧畜に恵まれた土地柄もあり、明治15年の尺別駅通所には134頭の飼養が記録されています。



当時使用した酪農資材など



当時の生活用品など

馬）で馬体は小さく馬耕には不向きなため中村牧場をはじめ、各牧場で改良されてきた歴史があります。

日露戦争で優秀な軍馬の必要性が認められると、さらに改良がすすめられ、大正10年には音別にも国有種馬種付所が設けられています。

昭和7年「日本釧路種」、昭和13年「奏上釧路種」とよばれる優秀な軍用馬が生み出され、釧路管内全域そして音別もこれらの馬産地として全国に知られるようになった。事実上は釧路管内の歴史を語る上で大変意義深く感じ取れます。

次号では音別地域の発展を支えた産業である尺別炭鉱について考察致します。

協力及び内容転用

音別町ふれあい図書館
「みなくる77」
2階 郷土資料展示室
釧路市音別町朝日2-81
TEL (01547) 6-3435
開館時間
午前10時～午後5時

参考文献
音別町史



kushironokyoren

メッセージを送信

フォローする

...

投稿182件

フォロワー1180人

フォロー中436人

釧路農協連

ローカルビジネス

北海道の道東にある釧路農協連です🐄🐎

釧路管内の酪農畜産業の魅力や各市町村の情報などをたくさんお届けします📺
気軽にいいね&フォローよろしくお願いします🙏

#釧路 #道東 #農業 #酪農 #新規就農 #酪農実習

www.youtube.com/channel/UCByt6s26abd8qAvJ95VsWQA

投稿

タグ付けされている人



Instagramもチェックしてください

アプリをお持ちの方は、「釧路農協連」で検索！
または、右図のネームタグをスキャン!!



KUSHIRONOKYOREN